

# 小金塚自治会だより

発行日	平成 28 年 9 月 25 日
編集	小金塚自治会
発行責任者	前 嶋 孝

## 納涼祭 多くの参加者で賑わいました

8月6日（土）午後6時から納涼祭が開催され、例年に比べ多くの参加者で賑わいました。恒例の各種団体の演技演奏では日頃の練習の成果が発表され、それぞれの団体の活動が生活に潤いを与えているのだろうと感じました。

盆踊りは「伊勢原おどり」「大山音頭」「炭坑節」「音頭につぼんめでた」の4曲をワンクールとして休憩を挟みながら3クール行いましたが、多くの子どもも加わり、最後は「もう少し踊りたい」という声があったほどでした。盆踊りがこれほど盛り上がったのは10年ぶりくらいではないでしょうか。

納涼祭のお楽しみの一つである模擬店にも多くの人だかりができました今年自治会で購入したポップコーン・マシーンが子供会の模擬店に置かれたのですが、なかなかの売れ行きでした。



写真提供：青柳 泰さん（白金第5地区）

## 防災訓練の重要性 関東大震災時における小金塚地区の様子を知る

8月28日（日曜日）、小雨の降る中、参加者約60人で“防災訓練”を行いました。小金塚地区の緊急避難場所は小金塚集会所隣のゲートボール場ですが、今年は、小金塚集会所内に集合し、白鳥勉防犯防災部担当役員の報告をもとに、以下の内容で「地域防災について考える」時間を持ちました。

### 1. 地域防災の必要性

予測のつかない災害、どうしたらその災害の被害を最小限にする事ができるか。突然の災害に対し、まず、住民一人ひとりが常日頃から防災についての理解を深め、家庭での対策や隣近所の人と

の協力体制を構築することが大切であると同時に、自治会を中心とした自主的な防災組織で自分たちの街は自分たちで守る、と言う考えでの活動や行動が重要です。

## 2. 関東大震災の時、小金塚はどうであったか

今から93年前の大正12年（1923年）9月1日に起こった関東大震災。その時の小金塚地区（全37世帯）の様子が以下のように記されています。

突然田んぼが大きく揺れ、近くの道は1m位段差が出来た。家の中にいた人は2-3m飛ばされ、顔はほこりだらけ、台所はガタガタになった。村の家は傾き、倒れて住める状態ではなかったが、それでも誰も地震と思った人はいなかった。人々は集まって近くの竹藪にムシロやゴザを敷き、蚊帳を吊り、当座をしのいだ。食糧も皆で持ち寄り食べた。大山地区が大きな被害を受けたので米などの食糧援助をした。傾いた家は、近所の人々が協力し合い住めるよう修理した。9月12日には大雨が降り、大きな山津波がおり、大山は赤はだかになった。（白鳥 宏著「小金塚風土記」より）

幸い小金塚での被災者は特に記されていません。

## 3. 伊勢原防災考「山が動く」DVD鑑賞

関東大震災時の伊勢原地域の状況について、当時の成瀬村役場が記録した資料をもとに編集されたDVDを観て、家庭でできる地震対策を学びました。それは以下の5項目でした。

- ① まず自分の身を守る 火の始末
- ② 靴・スリッパを履き、逃げ道の確保
- ③ ブレーカーを落とし、屋外の安全点検、（家族・隣人の安否確認）
- ④ 非常持ち出し品等の備え（ライフラインの備え）
- ⑤ 行動方法の取り決めをしておく（帰宅方法・避難場所・連絡方法）

今後、小金塚自治会としての防災組織をもっと充実しなければならぬと思っています。皆様のご協力をお願いいたします。



## 敬老会開催 小金塚地区の75歳以上の方131人に

9月18日（日）11時から小金塚集会所において敬老会が開催されました。敬老会に参加いただいた75歳以上の方31人は、お赤飯や福祉教養部手作りの煮しめ等の食事をしながら、近況報告をかねて自己



紹介をしていただきました。お一人お一人からの楽しい話題で盛り上がりました。また、恒例となっている歌やビンゴゲームも行われ、「毎年この会に出るのが楽しみ」という声も聞かれました。

## 今年度中にすべての防犯灯がLED化されます

伊勢原市のすべての防犯灯が蛍光管からLEDに交換されると同時に、これまで市に要望していた増設場所も認可され新設されます。

なお、LED化された後は、黄色い個別管理プレートで伊勢原市全体のおし番号がつけられることになっています。